

継投的中！随所に「らしさ」

樟南 2季連続九州へ

又六冠

号外

樟南	0000	221	100x116
鹿屋中央	0000	100	004115
準決勝（県立鴨池）			



第122回九州地区高校野球大会鹿児島県予選第13日は4月8日、鹿児島市の県立鴨池球場で準決勝2試合があり、樟南と神村学園が九州大会（2月19、24日長崎）出場を決めた。第1試合は、樟南が四回に先制点を許すもその裏すぐさま逆転。中盤でリードを奪って試合を優位に進めた。九回に満塁弾を浴び1点差まで詰め寄られたが、左腕 榎本亮が踏ん張り鹿屋中央に競り勝った。政純一郎

第一シードの底力発揮

最終回の満塁弾できん差の勝利となったが、随所に樟南らしい緻密さが発揮され、2季連続の九州大会出場を決めた。大きなヤマ場は四回表の継投だった。先発の辻野が今ひとつ調子が上がらず、八番 東倉崇之に中前適時打を浴びて先制された。まだ1点しか取られていないが、杵山智博監督はこの直後に左腕 榎本亮にスイッチする。辻野のボールがきてなかつたし、左が続いたので継投はあると思っていたと捕手 由原雄大。ライントを守っていた榎本もこのタイミングでの継投は頭にあった。榎本はゆるい変化球を有効に使って九番 徳満和也を空振り三振、当たっている一番 立元孝平を1球で左飛に打ち取り、相手に傾きかけた流れを断ち切った。杵山さんが継投を外したのを見たことがない。観戦していたある強豪校の監督も舌を巻くさし配の妙だった。

七回表の榎本 田原の配球にもつならされるものがあった。先頭の代打 迫大輔に二塁打を打たれ無死二塁で相手の中軸を迎える。バッテリーは三番 川畑慶孝、四番 大野裕俊の右打者に強気の内角勝負に出た。強打者を相手に、一歩間違えば長打を食らいかねない大胆な配球を試みた根拠は2つ。一は走を進塁させないようにつばらせることと、バットが外回りしていたから内角で抑えられると思ったり（榎本）から。注文通り川畑を遊ゴロ 大野を投ゴロ 最後は戸柱恭孝を中飛に打ち取って二走を釘付けにした。九回は投球が単調になつて大野に満塁弾を浴びて1点差まで詰め寄せられたが、緩急をつましく使って後続を断ち最後は併殺で切り抜けて、第一シードの底力を発揮した。



